

- ・コラム(杉浦 良)
- ・お知らせ(大学生見学研修、高校生体験ボラ、作業所交流会)
- ・スタッフ雑感
- ・ご協力者名簿／編集後記

「手練り寄せられた記憶」

杉浦 良

フェイスブックを見ていたら、こんな文章に出会いました。徳島県徳島市にある就労継続支援B型事業所ハートランドのスタッフYさんからのものです。

「・・・『とりわけ対人援助の分野では、クライアントに寄り添うだとか、クライアントの立場に立つとか、クライアントを理解するとかの麗句が目立ちますが、そもそも自分以外の他者、しかも自分には起きていないことを経験している他者に寄り添ったり、その人の立場に立ったり、その置かれている状況やその人の心情を理解することは本当に可能なのでしょうか。(香川県丸亀市NPO法人 SAJA 就労継続支援B型事業所たんぼぼの機関紙 LIFE 文中から抜粋)』

送られてきた機関紙に、本当にその通りだと思う内容がありました。以前、僕も精神障がい者の薬による副作用の大変さや苦痛を知ろうと思い、床に落ちてあった向精神薬をポケットに忍び込ませ、仕事の後に飲もうとと思っていましたが、夕方ごろに『も



Kさんが豚汁の差し入れをして下さいました

し飲んだとしても、彼らの持つ苦しみや怒り、悲しみには到底たどり着けない』と思い、ゴミ箱に捨てた記憶があります。そんな事をして、僕は健常者ですし、スタッフであると、、、同じ立場になれるはずないと思い、内なる差別性を知ること、知りうえた中で自分自身の差別性とどう向き合っていくかを感じた瞬間を思い出しました。」

この文章に手練り寄せられ、遠い昔、滋賀県野洲にあった重症心身障害児入所施設第2びわこ学園（現在びわこ学園医療福祉センター野洲）に関わらせてもらっていた頃を思い出しました。

「・・・Kさんは動く重症児と言われ、言葉もなく、よく私も殴られた・・・部屋の壁に人の顔を書くのだけれど、どれもみんな角が生えている・・・最近はおかわるのが上手くなって、殴られることが少なくなったけれど・・・色々やっているうちに・・・人の顔の角が時々なくなるようになった。長い時を経て・・・とうとう人間に生えていた角が無くなり・・・私も殴られなくなった・・・そんな顔の絵をカメラに収めてきた・・・ある時、子供たちに出されている薬をほんの少しだけ試しに飲んでみた。2、3日体が動けず本当に大変だった。こんなに強い薬をたくさん飲んで・・・動きを制限されていることの意味を考えると・・・茫然とした・・・」

そんな言葉と、語られたその方の顔が、突然浮かび上がってきたから不思議です。心の奥底に、しまい込んでいたのでしょ。

「・・・子供たちを海に連れて行ってやりたい・・・海の香、海水の辛さや海に包まれたあの感覚を感じさせてやりたい・・・子供たちを雪山に連れて行ってやりたい・・・ソリにのせて雪の上を滑るあの音あの感じ、そして雪の冷たさを味わわせてやりたい・・・IQ測定不能と言われるけれど・・・何かを感じるはずだ・・・」

そんな想いをトットツと話されました。

無い無い尽くして、旅費から宿泊費までバザーやカンパで賄いながら、ボランティアも費用を負担しての参加です。動く重症児と呼ばれた彼らを、海や雪山に連れていくことの大変さやリスクを思うと、足が震えるほどです。それでも敢えて学生ボランティアを集め、前日は自宅に宿泊させてまで、これらの企画を実行する想いの深さと情熱に、ただただ圧倒されました。軽い気持ちで参加した私など、その困難性と、そこに全存在を掛ける程の意味を見つける力はありませんでした。

「・・・みんないい顔していたよ！・・・学園では見せたことのない表情だった・・・」

そうニコニコして語った職員Eさんから、大切な事柄を教えられたことに気が付いたのは、随分時間が経ってからでした。水俣出身のEさんは、今の私ほど生きることなく、凝縮した人生を送り、あの世へ旅立ちました。寡黙で飄々とした姿からは想像しにくい、その生き様の凄さが、不思議にも蘇ってきました。

お知らせ

大学生の皆さんが 研修に来られました

2月15日（金）午後、四国学院大学の学生5名と富島先生（社会福祉学部教授）が来られました。毎年支援学校や小学校の教員を目指す学生を対象に、映画「そっちやない こっちや コミュニティケアへの道」（1982年/110分/カラー監督/柳澤寿男）を講義で見て、その後、杉浦がお話をさせて頂くというものです。

「そっちやない こっちや」の中に、様々なハンディを持ったメンバー達と若手指導員が「自分たちの作業所がこんな風になったらいいな」と願いを込めた設計図を描くシーンがあります。

「プロに頼めばしっかりした設計図が早くできるのに、なぜ時間の無駄のようなことをやったか？普通は絶対にこんなことはやらんよ！」

そんな突っ込みも入れながら、学生の言葉を引き出すアプローチは凄腕です。

後日、レポートを送って下さいました。一部ご紹介させて頂きたいと思います。

「施設内に入った時は驚きました。スタッフの方とメンバーの方との見分けがつかなかったからです。皆さん非常に明るく挨拶をしてくださり、ハンディがあるのかなと思いました。また、事業所の説明の際の「メンバーができることはメンバーにやってもらう」という言葉が印象的でした。「支援者」という役割で関わっていくばかりではな

く、人としてメンバーさんに関わりを持つ様子を聞き、“対象化”しないということはこのことだと思いました。メンバーさんの障害や弱点に注目するのではなく、その人自身のもつ力や強みを活かすことができるような活動を支援することによってメンバーさんの強みや経験を増やすことこそが、支援する側に与えられた役割の一つではないかと考えました。」

「メンバーが行う作業の中に、接客やレジ等の人と接する仕事があるだけでなく、言語障害や吃音の方が電話対応を担当していることを知り、驚いている自分がいた。自分自身は配慮しているつもりでも、相手の体験や経験をする機会を奪うことになっていたのではないかと私自身の過去を振り返り不安になった。配慮が排除になることがあるということに改めて恐怖を感じる機会になった。当事者を抜きにして勝手に考えるのではなく、当事者本人に聞き、共に行っていくことが重要である。」

「当時、接客・レジなどに障害がある人が入ることは、タブー視されていたということや、メンバーによる電話対応などを積極的に行っていたことから、そういった偏見の気持ちがあった人達の意識を大きく変えたと思います。地域の人達など、福祉と関係の無い人たちともたくさん関わっていくということや、接客が苦手だからその人をはじめてしまうということではなく、全ての人がある人に合った仕事を行っていけるようにするということが大切だと分かりました。」

家族会の皆様が来所見学

阿波観光ホテルにて、2月12日(火)午後、「みんなねっとフォーラム」が開催されました。四国四県の精神障害者家族会連合会が持ち回りで行う研修交流会です。次の13日は金毘羅タクシー大型バスで、太陽と緑の会の見学研修が用意され、約30名の方が参加されました。

パワーポイントで当会35年の歩みと活動内容やコンセプト等の説明、その後建物内を見学、そして買い物、有意義な時間となりました。四国四県から参加された皆様、そして大会事務局の皆さん、御疲れ様でした。

高校生体験ボランティア

1月5日(土)、徳島北高校の1年生8名の皆様が太陽と緑の会リサイクル作業所の活動体験に来てくれました。

午後1時から2時間、様々なハンディを持ったメンバーさんと、値札つけ、リユース商品のパッケージング、陳列、お持ち込みの受付、インフォメーション記入などの作業を体験して頂きました。

冬休みの貴重な時間を使って来て下さったとのこと。長篠校長先生もわざわざお越し頂き、最後の見学案内・活動説明まで聞いて下さいました。



作業所交流会

12月2日(日)阿南市那賀川社会福祉会館3階ホールにて、岩浅市長が来賓として出席されるなか、第16回ふれあいフェスティバルが開催されました。徳島県内の作業所・事業所が県南、県西、県北、県中央、那賀町と場所を移し、それぞれの地区の皆様が手作りの交流・発表・作品販売・成人式などの活動을續けて、16年になります。

「自分の施設や事業所・作業所の日常業務にも追われているのに、わざわざこんなイベントやらなくても・・・」と思われる節もありますが、様々なハンディーを抱えたメンバーたちが、色々な作業所・事業所で、それぞれ違う取り組みから生まれる作品や品物を見たり味わったりしながら、諸々の出し物を発表し、成人式も祝う会は他に聞いたことがありません。

一つの法人内で、沢山の切り口を用意しながら、その中でメンバー達の対応を効率良くする・・・そんな自己完結型の取り組みが幅を利かす中で、横の繋がりを大切にしながら、足りないところを補っていく互助会的な作業所・事業所の在り方の必要性を思います。地域福祉の意味は、やはりそこにあるのでしょうか。

東京からの贈り物

和三盆を活かしたショコラの製造販売に取り組んでおられる、東京のショコラティエTさんから、チョコレート菓子の贈り物が届きました。

人数分に切り分けてお皿に並べると、どれが一番大きいか真剣に吟味するメンバーも。

「高級なお菓子なんだから、ゆっくり、よく味わって食べてよ」

パート職員のHさんの声掛けに「やっぱり味が違います」と生返事をしながら一

口、二口、三口とあっという間に食べてしまったメンバーのFさん…。

「僕まだもらっていない。1個しか」と冗談を言いながら、いくらでも食べてしまいそうなメンバーのK君。

メンバーのO君に「これうまいから食べてみなよ」と何回も勧められて、まだお昼ご飯を食べていないのに、思わず口にしてしまった女性スタッフのFさん…。

新年初日でバタバタとしておりましたが、皆、とても満足そうでした。

Tさん、本当にありがとうございます。

スタッフ雑感

平成30年4月から太陽と緑の会のスタッフとして活動し、もうすぐ一年になろうとしています。太陽と緑の会の活動については25年ほど前から知っており、機関紙を読ませていただき長年にわたってのブレない活動“凄いな”と思っていました。また、太陽と緑の会創設者の近藤文雄先生は私の尊敬すべき方で、沢山の事を教えていただきました。その中で一番心に残っているのは、「重度の障がい者がオムツ交換の時に、介護者が交換しやすいようにお尻を持ち上げる。その行為が社会貢献である。」という言葉です。持っている能力を精一杯活かし生きることが大切で、原点であるということをお教いただきました。自問自答すると力量不足で遂行出来ておらず、近藤先生を思い出しながら反省しています。

活動する中で日々感じることは、メンバーさんの感覚の鋭さです。真剣な思いや誠意がないと綺麗な言葉を並べても、それが上辺だけのものなら見透かされ伝わりません。そして、根底からの思いに対しては必ず返してください。反対に私が落ち込んだり困っていると、それを感じ取り優しい言葉を掛けてくださいます。メンバーさんのその様な能力に驚かされると共に感謝しています。少しでもお返しできるように、メンバーさんの生きてこられた背景を大切に確かめながら、より良い生活が過ごせるように支えていければと思います。憧れであった場所での活動「人も物も活かされる街づくり」のコンセプトの一助となれるよう微力ではありますが、一日一日を大切に積み重ねていきたいと思っています。

(太陽と緑の会スタッフ 山下 久美子)

当会の活動をご支援下さった皆様

§ 2018年12月6日～2019年2月28日 § (紙面の都合上、敬称は略させていただきます)

ご寄付を下された皆様

木村(岡本)、糸田川、三好商事自動車部、佐藤医院、田村、生田、田中、匿名(郵便振替口座) 鈴江、北岡、大谷、浜田、匿名、大田、坂東、堺、巻島、瀧倉、杉本、永口、足立、瀧倉、秋山、荻野、高坂、伊地知、亀倉、太田、野田、原、豊崎、太田、森、平池、佐藤、榎本

品物を持って来て下さった皆様(郵送含む)

○徳島市○三月田、松下、新居、中村、多智花、津地、福原、京寛、北、新居、河崎、岩佐、江口、宮田、平山、阿部、豊田、立石、岸、喜多、佐中、伊藤、後藤、西、山本、芝野、岩丸、三浦、第一病院乾、久樹、木藤、徳丸、小川、池内、井内、尾形、新居、長楽、西川、小倉、尾方、岩崎、柳原、山本、桂、檜下、田中、中山、荒木、川崎、西岡、松下、宮田、十河、矢本、山下、中田、笠井、廣瀬、島田、片山、谷口、富永、城西病院、辻、多田、久米、丸宮、斎藤、友成、大野、喜多、小川、美濃、徳永、橋本、堀淵、福家、三好、平野、玉谷、藤谷、浅川、西、真鍋、廣瀬、平瀬、小畠、濱口、森、野口、中村、川又、宮本、和泉、藤本、吉持、武田、椎野、岡、稲垣、奥谷、四方、麻植、秋山、国府小学校 島田、宮井、万山、高島、真鍋、長浜、大野、下内

○阿南市○中西、岩本、佐野、原、上田○吉野川市○深見、枝沢、迎、英、富本、横瀬、上浦小学校、土肥、栗原○石井町○片山、森野、植田、桑原、山口○藍住町○里見、山下、大下、黒川、橋本○鳴門市○高橋、根来、正木、笠井、山本○小松島市○古田、河原、宮城、雲井○板野町○信田○美馬市○藤田、新居○北島町○溝淵、尾田、(株)フジワーク○阿波市○大木、大森、福田○北島町○多田○上板町○小磯○神山町○清水

○東京都○三木、瀧倉、小林○静岡県○中村○香川県○松村○福岡県○永峰○愛知県○松浦○神奈川県○高坂



値段の押印

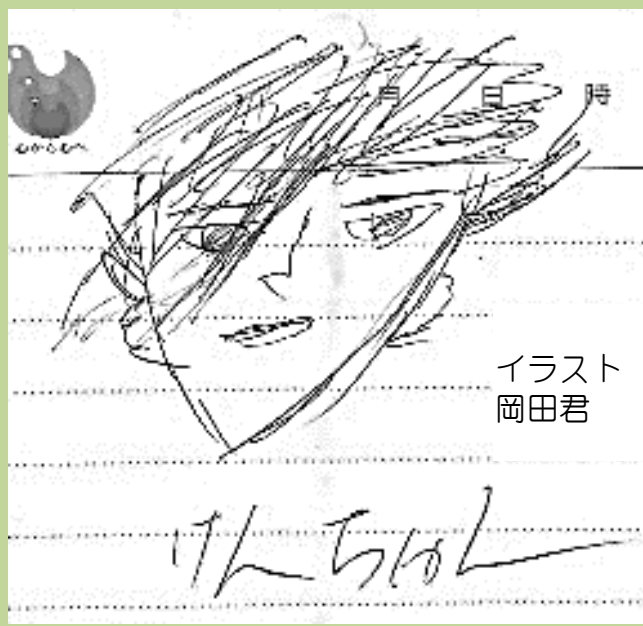


イラスト
岡田君

品物を引き取りにお伺いさせて頂いた皆様

○徳島市○増田、細川、猪井、坂東、藤田、篠原、上山、湯浅、端野、市瀬、福原、渡辺、中村、杉本、大野木、岡本、(杉ノ子保育園)吉田、川崎、吉内、筒井、岡田、細岡、東、若草幼稚園、土肥、富士谷、吉井、宮本、三好、岸本、森、横山、上田、寺西、阿部、江口、出口、田上、上原、杉本、藤山、本多、楠根、八幡、国安、西林、山本、島田、広野、桐川、井内、谷口、渡部、朝日生命、矢本、大原、中川、鈴木、三木、橋本、久方、山根、県土整備局、谷口、井手岡、オグラ、七條、松村、田中、高瀬、黒田、松崎、張、藤本、岸本、吉川、柏木、日浦、七條、児島、秦、宇治製菓、木藤、森、宮西、松岡、阿部、大森、和田、米沢、佐川、佐藤、中野、森下、大西、福本、坂野、沢谷、天羽、森尾、小田、加藤、近住、篠原、藤田(八万婦人会)、桜薬局、中原、林、森、そごう、鈴江、池上、木田、大下、岡久、林、正木、鈴木、横山、幸田医院、佐藤医院、上田、田村、堀、柿本、小西、宮越、折原、村田、今獅々、武市、榊原、カネ、藤田、前林、芦田、三宅ファミリーマート幸田店、和田、浜口、桑原、川添、東部県税局、菊谷、岩城、藤原、久繁、ビューティーオアシスチヨ、富田、眞家、布施、戎、宮本、柴田、八万幼稚園、佐伯、県看護協会、貝出、福田、上菅、土肥、永廣、武知、三宅、宮本、三木、斎藤、多田、堀、増田、伴、井原、鶴田、佐木川、アイ美容院、相原、富内、横山、山田、片山、鶴飼、百々、岩崎、岡田、内田、後藤、篠原、鳴門シーガル病院、横山、森出、高木、小川、柴田、工藤、住友、卯坂、太田、松本、猪上、岸、垂髪、中尾、久保○石井町○友成、三賀、三木、坂東、大門、松島○鳴門市○竹中、長尾、西岡、岩田、谷崎、岩朝、越智、野尻、長尾、みはるホーム、岡田○阿波市○(美馬ウエルビーモーターズ)新居○藍住町○久保田、淡井、上田、阿部、近藤(藍園陸運)○小松島市○米田、坂尾、木下、矢部、埴淵、川人○吉野川市○美馬、新見○北島町○中屋○松茂町○森

いつも当会の活動にご支援ご協力頂き、ありがとうございます。

品物を持って来て下さった皆様の中には、「何回も来て、書いているので」「名前は結構ですから」と、お名前を書かずに帰られた方も多数おられ、実際は上記の3倍以上の皆様からご協力を頂いております。

白菜、大根、カブ、ほうれん草、サツマイモ、水菜、みかん、甘夏、鹿肉など、旬のお野菜や果物を差し入れて下さった皆様、ありがとうございます。缶ジュース、ペットボトル飲料、お菓子などを下さった皆様もありがとうございます。経済的に厳しい家庭のメンバーも多く、食材などのご寄付は本当に有難いです。

メッセージを添えてお品物を郵送して下さった皆様、その他の皆様にもこの場を借りてお礼申し上げます。ワークキャンプや一年間ボランティアに参加された方で、今でも当会のことを思い出して送って下さる方がおられ、本当に嬉しく思います。頂いた品物は大切に活用させていただきます。リユース・リサイクル可能なものがございましたら、ぜひお電話下さい。

※本誌へのお名前の掲載を希望されない場合は「匿名希望」と記入して頂ければ幸いです。

定休日について

水曜日、第2第4火曜日、及び祝日を定休日とさせて頂いております。

3月26日(火) 27日(水)

4月3日(水) 9日(火) 10日(水) 17日(水) 23日(火) 24日(水)

4月29日(月・祝日)～5月5日(日) GW休み

5月8日(水) 14日(火) 15日(水) 22日(水) 28日(火) 29日(水)

6月5日(水) 11日(火) 12日(水) 19日(水) 25日(火) 26日(水)

編集後記～おいでおいで

県内のある精神科の病院には本院とは別の場所に外来専用のクリニックがあります。Aさんはそのクリニックに月1回通院し、主治医の先生の診察を受け、服薬するお薬を受け取っています。

ある日、Aさんがポツリと話し始めました。

「本院にはえっと（ずっと）行っていない。〇〇（クリニックの名前）の方がいい。もう本院には行きたくない。引き込まれそうで…」

かつて、本院に行くと入院中の当事者の方から声をかけられることがしばしばあって「それもしんどかった…」と。

今から10年ほど前、別のメンバーさんがその本院に入院していた時に、面会に行かせて頂いたことがあります。

病棟の入り口前のベンチに3人ほど当事者の方が座っておられて、入って行こうとする私をジッと凝視されていた光景を思い出します。

「せこい（しんどい）思いして働いても大して金にならへんやろ？」

「世間は厳しい。ワシらの苦しみなど誰も分かってくれへんわ」

「無理して頑張らんでもええやんか」

退院して作業所に通うようになり、何とか再入院せずに地域での営みを続けていく後姿を呼び止める声。

「保護室は嫌だった。カメラがあつて…便器の横で食事なんて…全部捨てた…」

「入院して良かった。入院してなかったら死んでいたかもしれない。他の患者さんも看護婦さんも皆優しくしてくれた。でも、もう入院はしたくない。戻りたくない。」

当事者にしか語れないもの。「分かる」などと軽々しく言うことを許さない凜とした空気が、そこにはありました。

（文責：小山）

※Aさん入院当時と比べ、精神科医療を取り巻く状況は大きく変わったことも付記しておきます。

NPO法人 太陽と緑の会

私たちは、「人も物も活かされる街づくり」をテーマに、ハンディのあるなしに関わらず「地域の中でその人がその人の足で立っていけること」を目指し、様々な方々（市民、ボランティア、行政）の支えを頂きながら土、日を含めた日常活動を行っています。

これは、日本の次世代型ソーシャルアクションモデルになると考えています。このような活動のあり方により、徳島の将来や日本の未来が、幸多く豊かであることを願っております。

発行：NPO法人 太陽と緑の会

〒779-3120 徳島市国府町南岩延 107-1

TEL・FAX 088-642-1054

代表理事 杉浦良 編集 小山 隆太郎

ご協力者名簿作成担当メンバー 岡田

ゆうメール押印・宛名シール添付担当メンバー 堀

製本・発送作業担当メンバー 岡田 福住

年会費：正会員 1万円（総会議決権・事業決算報告）

準会員 1,000円（機関誌発送のみ）

郵便振替口座

01620-8-44703

加入者名：特定非営利活動法人太陽と緑の会